

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ぷりも		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 24日		2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2026年 1月 24日		2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 24日		2026年 2月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	経験豊富な職員が複数人いることで様々な視点からのアドバイスができる	訪問する職員は訪問先に偏りがないようにし、違った視点で観察できるようにしている。	訪問支援での内容の共有を詳細にする。 児童発達支援との連携を深め、支援に活かしていく。
2	訪問後のフィードバックが素早く、課題や対策が考えやすい	フィードバックを当日に行えるよう調整し、より鮮明でリアルタイムな情報をお伝えできるようにしている。	他事業所での訪問支援のやり方を実際に聞き取りに行き、支援内容や評価の様子を学びさらにいい支援に繋がれるようにする。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童が少ない	保護者様の訪問支援の認知度が低い 保護者様が必要性を感じていない	サービスがあるを再周知し、利用にあたってのメリットを伝えていく
2	災害時等の訓練が充実していない	訪問時の災害の想定が難しい ミーティングの時間を割くことが難しい	児童発達支援のサービスとうまく並行して訓練を行う
3	訪問できる職員に偏りがある	訪問支援は特に高度で柔軟な対応が求められ、そこに支援のスキルの差がでてしまう。	研修・勉強会の実施、充実 訪問に行くことができるスキルを持つ職員を育てていく